

芸術科「書道」シラバス

《 2単位 通年 》

豊かな心の教育が必要とされている今、高校生の芸術・文化への理解は、より注目されるようになってきました。「書」は、数千年の歴史を背景に、東洋的な芸術として、日本だけでなく中国や朝鮮などの漢字文化圏において発展してきました。文字そのものは情報伝達の記号ですが、そこにさまざまな美の要素が盛り込まれて芸術としての書が成立します。筆者の感性と技術によって書的美しさが生まれることを、表現と鑑賞の活動を通じて学びましょう。

書道 の学習をとおして、生涯にわたり書を愛好する心をはぐくみ、感性を豊かにしましょう。

主な学習内容

表現すること

「書の古典」をとおして基礎的な技法を学ぶとともに、“書く”目的や用途によって、いろいろな形式や表現方法をを工します。主な学習は、次の三つです。

漢字仮名交じりの書

漢字仮名交じりの詩歌や文章・語句などを書いた「書」をいいます。日常的な表記を用いるので、漢字と仮名の調和を図りましょう。

漢字の書

中国や日本の漢字を書いた「書」で、漢詩や漢文、または短い語句や一字だけの場合もあります。古典の用筆・運筆や字形に着目しながら、さまざまな表現方法を学びましょう。

仮名の書

平安時代の仮名の「書」の伝統をふまえて、日本独自の仮名の美を学び、細めで明るく流れるような律動感のある線や全体の構成を学びましょう。

鑑賞すること

次のような点に注目しながらさまざまな作品を鑑賞します。

キーワード

日常生活と書のかかわり 書的美しさと表現効果 日本及び中国等の書の文化

<p>授業で守ってほしいこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・書は精神性が重視される芸術ですので、書く者の心が端的に表れます。表現の活動は、集中して取り組むことが求められます。 ・鑑賞には落ち着いた雰囲気が必要です。授業はチャイムと同時に始めますので、教材、用具を準備し、着席をしてはじめられるようにしてください。
<p>自己評価のポイント *それぞれの題材や活動のまとめごとに評価シートを用いて学習をふりかえるためのチェック項目です。</p>	<p>1時間の中での進歩、題材をとおしての進歩、学期をとおしての進歩、そして、1年間の学習をとおしての進歩を自覚しながら取り組んでください。 自己評価シートを用いて、学習のまとめごとに学習を振り返ります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古典に基づく基本的な用筆・運筆などの技能を身に付けられたか。 ・題材や活動に対して関心が高まったり、意欲的に取り組めたか。 ・感性や想像力をはたらかせて、書の作品のよさや美しさを感じ取ることができたか。 ・自分の表現意図に合った方法を得るため、用具・用材や表現形式を工夫できたか。 ・作品を鑑賞するポイントを理解し、自分の考えを述べることができるか。 ・日本及び中国等の書の文化や歴史などを理解することができたか。

学習計画 前期

学 習 内 容	月	学 習 の ね ら い	提出物・自己評価
1 書の美を求めて [pp. 4- 9] 書の分野 古典とその臨書 用具 執筆法・用筆法	4	<ul style="list-style-type: none"> ・実用の立場を重視する小学校や中学校の国語科の書写と、これから学んでいく芸術科の書道の違いを確認します。 ・書の分野、古典とその臨書、用具、執筆法 ・用筆法について基礎的な知識を身に付けます。 <p>「臨書」とは、古典を手本として書くことで、書の基本となるものです。</p>	自己評価シート <ul style="list-style-type: none"> ・書の学習の心構え ・基礎的な知識の確認 ・作品の制作
2 漢字仮名交じりの書の学習(1) [pp.10-15] 言葉や詩文を書く筆による表現の力 よりよい表現を求めて	5	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な言葉や詩文を題材に、漢字の力強さと仮名の優美さを調和させ、自分の意図に基づいて表現します。 ・用具や用材の違い、字形・文字の大きさ等の全体構成を工夫の効果を確認します。 <p>「漢字仮名交じりの書」とは、漢字仮名交じりの詩歌や文章・語句などを素材とした書です。</p>	自己評価シート <ul style="list-style-type: none"> ・題材の選択 ・構成の工夫 ・作品の制作 作品の提出 ファイルの提出
3 楷書の学習 [pp.16-31] さまざまな楷書 厳正と温雅 重厚と軽快 方勢と円勢 小字の鑑賞と臨書	6	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字の楷書の古典の学習を通して、毛筆によって表現された楷書のもつ多様な表現の可能性を確認します。 ・時代の特性や作者の個性について学び、代表的な楷書古典の表現の方法の特徴を確認しながら鑑賞します。 ・古典の技法を忠実にとらえて書くことをとおして、基本的な点画や線質の表し方と用筆・運筆の技法を身に付けます。 <p>「楷書」とは、現在、活字として一般に用いられている書体です。</p>	自己評価シート <ul style="list-style-type: none"> ・歴史的な背景の理解 ・作者の個性の理解 ・書における自己の個性の理解 ・作品の制作 作品の提出 ファイルの提出
4 行書の学習 [pp.32-51] 行書の特徴 蘭亭序の鑑賞と臨書 争坐位稿の鑑賞と臨書 風信帖の鑑賞と臨書	9 10	<ul style="list-style-type: none"> ・行書が、実用性と芸術性という二つの側面を持つことを確認します。 ・時代の特性や作者の個性について学び、代表的な行書古典の表現の方法の特徴を確認しながら鑑賞します。 ・古典の技法を忠実にとらえて書くことをとおして、基本的な点画や線質の表し方と用筆・運筆の技法を身に付けます。 <p>「行書」とは、中国の漢の時代に隸書を速書することから始まり、東晋の時代に芸術的に完成された書体です。</p>	自己評価シート <ul style="list-style-type: none"> ・歴史的な背景の理解 ・作者の個性の理解 ・書における自己の個性の理解 ・作品の制作 作品の提出 ファイルの提出
定期テスト(前期)		(出題方針) ア. 書道の分野と用具についての知識や理解の定着をみます。 イ. 楷書古典の特徴に関する知識や理解の定着をみます ウ. 行書古典の特徴に関する知識や理解の定着をみます。 行書古典については、テストの2週間前に範囲を発表します。	
課題・提出物などの整理の方法 <ul style="list-style-type: none"> ・作品の制作過程及び提出、自己評価シートなどは、クリアファイルに整理していきます。 ・自己評価シートは、ふだんの授業の取り組みを振り返り、学習のねらいの達成に向けて、学習がうまく進んでいるかチェックするものです。 ・作品制作の途中経過(試書・中間まとめ・添削を受けたものなど)も記録としてファイルします。 ・单元ごとに、作品を提出します。この際、ファイルも同時に提出します。 			
成績の判断の基本となる項目 <ul style="list-style-type: none"> ・提出作品 ・ファイル(自己評価シート、作品制作の途中経過の記録) ・学習活動への参加の態度 ・定期テスト 			